



安全データシート

この安全データシートは以下の要件に準拠している：
JIS Z 7252:2019、 JIS Z 7253: 2019

発行日 16-11-2021

改訂日 29-6-2022

改訂番号 2.2

1. 化学品及び会社情報

製品名	メタノール (Methanol)
別名	メチルアルコール、木精アルコール、水酸化メチル
CAS番号	67-56-1
処方 分子量	32.04
登録番号	情報なし

安全データシートの供給者の詳細

供給者

メタネックス・ジャパン株式会社
105-6318
東京都港区虎ノ門1-23-1
虎ノ門ヒルズ森タワー18階
電話番号：+81 3 6807 3920
ファックス：+81 3 6807 3921

緊急連絡電話番号 +81 3 4578 9341
NCEC: 0120 015 230

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	産業用 職業的使用 消費者用 溶剤 燃料 原料 洗浄剤 実験用試薬 一般消費者用洗浄剤及び除氷剤
------	--

使用上の制限 なし

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

引火性液体	区分 2
誤えん有害性	分類できない
急性毒性（経口）	区分 3
急性毒性（経皮）	区分 3
急性毒性（吸入） - ガス	区分に該当しない

急性毒性（吸入） - 蒸気	区分 3
急性毒性（吸入） - 粉じん／ミスト	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分 1B
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1 区分 3
区分 1 中枢神経系、視覚器、全身毒性。	
区分 3 標的臓器影響： 気道刺激性、麻酔作用。	
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1
区分 1 中枢神経系、視覚器。	
水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- ・飲み込むと有毒
- ・皮膚に接触すると有毒
- ・吸入すると有毒
- ・強い眼刺激
- ・生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- ・臓器の障害
- ・呼吸器への刺激のおそれ
- ・眠気又はめまいのおそれ
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
- ・引火性の高い液体及び蒸気

以下の臓器の障害： 中枢神経系、視覚器、全身毒性。

長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害： 中枢神経系、視覚器。

注意書き

安全対策

- ・使用前に取扱説明書を入手すること
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
- ・保護手袋／保護衣及び眼／顔面保護具を着用すること
- ・取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと
- ・屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること
- ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと
- ・容器を接地しアースをとること
- ・火花を発生させない工具を使用すること
- ・静電気放電に対する措置を講ずること
- ・熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙
- ・容器を密閉して保管すること

- ・ 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること
- ・ 涼しいところに置くこと

応急措置

- ・ ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること
- ・ 特別な処置が緊急に必要な場合（このラベルの応急措置についての補足指示を見よ）
- ・ ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること
- ・ 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- ・ 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること
- ・ 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること
- ・ 口をすすぐこと
- ・ 皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹸）で洗うこと
- ・ 気分が悪いときは医師に連絡すること
- ・ 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること
- ・ 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと
- ・ 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
- ・ 医師に連絡すること
- ・ 気分が悪いときは医師に連絡すること
- ・ 火災の場合：消火するために乾燥した砂、粉末消火剤又は耐アルコール泡消火剤を使用すること

保管

- ・ 施錠して保管すること
- ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと

廃棄

- ・ 内容物／容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること

他の危険有害性

- ・ 毒物
- ・ 製品を飲み込むと失明するリスクがある

3. 組成及び成分情報**化学物質・混合物の区別**

化学物質

CAS番号

67-56-1

化学品の名称	CAS番号	重量%	化審法インベントリ	化審法番号	安衛法インベントリ	安衛法番号
メタノール	67-56-1	100	既存	(2)-201	既存	(2)-201

化学物質排出移動量届出制度（PRTR）

該当しない

労働安全衛生法**通知対象物質**

安衛法通知対象物質：労働安全衛生法施行令別表第9（労働安全衛生法第57条の2及び労働安全衛生規則第34条の2の4関係）

化学品の名称	CAS番号	区分	政令番号	含有率 %
メタノール	67-56-1	通知対象物質	560	90 - 100

表示対象物質

安衛法表示対象物質：労働安全衛生法施行令別表第9（労働安全衛生法第57条および労働安全衛生法規則第33条関係）

化学品の名称	CAS番号	区分	政令番号	含有率 %
メタノール	67-56-1	表示対象物質	560	90 - 100

毒物及び劇物取締法

劇物

化学品の名称	CAS番号	毒物及び劇物
メタノール	67-56-1	劇物（法律第2条、別表第2）

4. 応急措置

一般的なアドバイス

治療を行う医師にこのSDSを示すこと。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移すこと。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行うこと。直ちに医師の手当てを受けること。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。負傷者がその物質を飲み込んだり吸入した場合には口移し法は使わないこと。一方向弁付きポケット・マスク又は他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。呼吸が困難な場合には、（資格のある者が）酸素吸入を行うこと。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服及び靴を脱ぎ、直ちに石けん（鹼）と多量の水で洗うこと。直ちに医師に診察／手当てを受けること。

眼に入った場合

直ちに少なくとも15分間まぶた（瞼）の裏側まで多量の水で洗うこと。洗っている間は眼を大きく広げたままにすること。受傷部をこすらないこと。直ちに医師に診察／手当てを受けること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。口をすすぐこと。意識のない者には、何も口から与えてはならない。直ちに医師に診察／手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

飲み込むと、吐き気、脱力感、中枢神経系への影響、頭痛、嘔吐、めまい、酔いの症状を引き起こす。重度のばく露は、呼吸不全による昏睡及び死に至るおそれがある。医療措置を必要とする。ばく露後、発症まで数時間かかることがある。眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。灼熱感。咳及び／又は喘鳴。呼吸困難。高濃度の蒸気を吸入すると、頭痛、めまい、疲労、吐き気及び嘔吐のような症状を引き起こすおそれがある。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

すべての着火源を排除すること。医療者が物質の関与を認識していることを確認し、彼ら自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。負傷者がその物質を飲み込んだり吸入した場合には口移し法は使わないこと。一方向弁付きポケット・マスク又は他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。蒸気やミストを吸い込まないこと。

医師に対する特別な注意事項

毒物。飲み込むと生命に危険のおそれ。メタノール摂取による症状の重症度は、摂取量ではなく、摂取から治療の開始までの経過時間に関連する可能性がある。したがって、飲み込んだ際は迅速な治療が必要である。中毒センターに連絡すること。解毒剤：ホメピゾールは代謝性乳酸の除去を促進する。解毒剤は資格のある医療関係者が投与すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水スプレーを使用して、火にさらされた容器を冷却すること。水はメタノールを引火点以下に冷却しない。粉末消火剤。乾燥砂。二酸化炭素（CO2）。水噴霧。耐アルコール泡消火剤。

使ってはならない消火剤

火災を拡散するおそれがあるので棒状水を使用しないこと。

特有の危険有害性	引火性の高い液体及び蒸気。蒸気は空気より重いので床に沿って広がるおそれがある。水及び20%を超えるメタノールを含有する混合物：引火性。発火のリスク。製品及び容器を熱源及び着火源から遠ざけること。火災の場合には、水噴霧でタンクを冷却すること。燃焼残留物や汚染された消火水は現地の規制に従って廃棄しなければならない。
危険有害性燃焼生成物	毒性ガス及び蒸気。一酸化炭素。二酸化炭素（CO ₂ ）。ホルムアルデヒド。
爆発性	蒸気が空気と爆発性混合物を形成するおそれ。
特有の消火方法	提供された情報に基づき知見なし。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。個人用保護具を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	人員を安全な区域に退避させること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。十分換気されているか確認すること。人員を漏出／漏えい（洩）の風上に遠ざけること。全ての着火源を排除すること（近接区域は喫煙とし、裸火、火花又は火炎を排除すること）。フラッシュバックに注意すること。静電気に対する予防措置を講ずること。製品を取り扱うときは使用する全ての器材を接地すること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。蒸気やミストを吸い込まないこと。
緊急対応を行う者のための保護具	項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	環境への放出を避けること。現地の法規に従って内容物／容器を廃棄すること。低濃度で良分解性。水に可溶。この物質は、放出されると蒸発すると見込まれる。土壌や水生環境の汚染又は排水口への排出があった場合は、当局へ連絡すること。項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。安全に対処できるならば、それ以上の漏えい（洩）又は漏出を防ぐこと。製品が排水路に入らないようにすること。
封じ込め方法	リスクを伴わずに可能ならば漏えい（洩）を止めること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。蒸気抑制泡を使用して蒸気を減らすことができる。流去水を回収するために液体流出物のかなり前方に堤防を築くこと。排水路、下水溝、排水溝、水路に入らないようにすること。後で廃棄するために土、砂又はその他の不燃性材料に吸収させて容器に移すこと。
浄化方法	静電気に対する予防措置を講ずること。せき止めること。不活性吸収材料で吸収すること。回収して適切に表示された容器に移すこと。
二次災害の防止策	汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。
その他の情報	その区域を換気すること。項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	個人用保護具を使用すること。熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。静電気の放電、火災又は爆発を防止するために、この物質を移動するときは接地及びアース接続を使用すること。火花を発生させない工具及び防爆型の機器を使用すること。スプリンクラーが装備された区域に保管すること。包装容器のラベルに記載の
----------	---

指示に従って使用すること。産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された衣類及び靴を脱ぐこと。蒸気やミストを吸い込まないこと。換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。製品の取扱いを閉鎖系内に限定するか適切な排気式換気を設けること。

衛生対策

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された作業衣を決して作業場から持ち出してはならない。機器、作業区域及び衣類を定期的にクリーニングすることが推奨される。休憩前及び製品の取扱い直後に手を洗うこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。適切な手袋及び眼／顔面保護具を着用する。汚染された衣類及び手袋は脱ぎ、再使用する前に内側を含めて洗濯をすること。蒸気やミストを吸い込まないこと。

保管

安全な保管条件

容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。熱、火花、炎及び他の着火源（例えば、点火バーナー、電気モーター及び静電気）から遠ざけること。適切な表示のある容器に保管すること。可燃性物質の近くには保管しないこと。スプリンクラーが装備された区域に保管すること。個別の国内規制に従って保管すること。現地の規則に従って保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

局所排気換気装置を設けること。製品の取扱いを閉鎖系内に限定するか適切な排気式換気を設けること。製品を取り扱うときは使用する全ての器材を接地すること。

許容濃度

化学品の名称	日本産業衛生学会	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度	ACGIH TLV
メタノール 67-56-1	TWA: 200 ppm TWA: 260 mg/m ³ S*	200 ppm	STEL: 250 ppm TWA: 200 ppm S*

生物学的職業性ばく露限界値

化学品の名称	日本産業衛生学会	ACGIH
メタノール 67-56-1	20 mg/L - urine (Methanol) - end of shift	15 mg/L - urine (Methanol) - end of shift

環境ばく露防止

的確な技術対策を行い、環境への流出、漏出、大気及び水路への排出を防止すること。作業場管理及び廃棄の処理には常に最善の方法を用いること。重大な流出を封じ込めることができない場合には、地方自治体に報告しなければならない。

保護具

呼吸用保護具

圧力要求モードまたは他の陽圧モードで作動する全面型の給気呼吸保護具。リスクアセスメントの結果、必要とされる場合は、適格にフィットする認可を得た空気浄化又は給気呼吸器を使用すること。呼吸保護具の選択は、既知又は予想されるばく露レベル、製品の危険性、及び選択した呼吸器の安全な作業限界に基づいて行うこと。

眼、顔面の保護具

密封性の高い安全ゴーグル。

手の保護具

適切な手袋を着用する。不浸透性手袋。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用する。長袖の衣類。耐薬品性エプロン。帯電防止長靴。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観	透明な液体トウメイエキタイ	
物理状態	液体	
色	無色透明	
臭い	アルコール	
臭いのしきい値	4.2 -5960 ppm	
特性	値	備考・方法
融点／凝固点	-97.8 °C / -144 °F	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	64.7 °C / 148.5 °F	データなし
可燃性		データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		データなし
爆発又は可燃の上限界	36.5%	データなし
爆発又は可燃の下限界	5.5%	データなし
引火点	11 °C / 51.8 °F	データなし
蒸発速度	4.1	酢酸ブチル= 1
自然発火点	464 °C / 867.2 °F	データなし
分解温度		データなし
pH		データなし
粘度		
動粘性率		データなし
動的粘度	0.8 cP	@ 20 °C
水への溶解度	水と混和	データなし
溶解度		データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log値-0.77)		log Pow
蒸気圧	12.8 kPa	@ 20 °C
密度及び／又は比重		
相対密度	0.791 - 0.793	@20°C
蒸気濃度		データなし
かさ密度		データなし
相対ガス密度	1.1	@ 20 °C (空気= 1)
粒子特性		
粒径		該当しない
粒径分布		該当しない

その他の情報

爆発性	蒸気が空気と爆発性混合物を形成するおそれ
酸化特性	知見なし
分子量	32.04
VOC含有率 (%)	100%

10 : 安定性及び反応性

反応性	通常の使用条件下ではない。
化学的安定性	引火性又は爆発性のある蒸気と空気の混合物が発生するおそれがある。 吸湿性。
危険有害反応可能性	通常のプロセスではない。

避けるべき条件	直射日光から保護すること。容器が熱にさらされると破裂または爆発するおそれがある。熱、炎及び火花。過剰な熱。
混触危険物質	鉛。ポリエチレン。ポリ塩化ビニル (PVC)。ニトリル。アルミニウム。亜鉛。強酸。強塩基。強酸化剤。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素。二酸化炭素 (CO ₂)。ホルムアルデヒド。
危険有害な重合	危険有害性の重合は発生しない。
爆発データ	
静電放電に対する感度	該当する。
機械的衝撃に対する感度	なし。

11. 有害性情報

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報

危険有害性を反映するものとして提供されているATE値

ATEmix (経口)	100 mg/kg
ATEmix (経皮)	300 mg/kg
ATEmix (吸入 - 蒸気)	3 mg/l

化学品の名称	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
メタノール	= 6200 mg/kg (Rat)	= 15840 mg/kg (Rabbit)	= 22500 ppm (Rat) 8 h

略語及び頭文字

Rat: ラット

Rabbit: ウサギ

症状	飲み込むと、吐き気、脱力感、中枢神経系への影響、頭痛、嘔吐、めまい、酔いの症状を引き起こす。重度のばく露は、呼吸不全による昏睡及び死に至るおそれがある。医療措置を必要とする。ばく露後、発症まで数時間かかることがある。眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。咳及び／又は喘鳴。呼吸困難。高濃度の蒸気を吸入すると、頭痛、めまい、疲労、吐き気及び嘔吐のような症状を引き起こすおそれがある。
----	---

製品情報

経口	毒物。この化学物質又は混合物の特定試験データはない。飲み込むと胃腸刺激、吐き気、嘔吐、及び下痢を引き起こすおそれがある。飲み込むと有毒。(成分に基づく)。
吸入	蒸気が刺激するおそれ。この化学物質又は混合物の特定試験データはない。気道刺激を引き起こすおそれ。吸入すると有毒である。(成分に基づく)。眠気又はめまいのおそれ。
皮膚接触	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。刺激のおそれ。長期にわたり接触すると発赤及び刺激を引き起こすおそれがある。皮膚に接触すると有毒。(成分に基づく)。
眼接触	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。強い眼刺激。(成分に基づく)。発

	赤、掻痒感、及び痛みを引き起こすおそれがある。
皮膚腐食性／刺激性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。 皮膚刺激のおそれ。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	成分に対して利用可能なデータに基づく分類。 強い眼刺激。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし。
生殖細胞変異原性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 区分に該当しない。
発がん性	EU CLP：区分2（告示2018-24、5条に準じてCLPに適用する）。 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。
生殖毒性	生殖毒であることが知られている又は疑われる物質を含んでいる。 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。
標的臓器影響	眼: 視神経。 中枢神経系。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	国又は地域で採用され、SDSが準拠している世界調和システム（GHS）の分類基準に基づき、この製品は急性のばく露に起因して全身標的臓器毒性を引き起こすと判定されている。（STOT SE）。 飲み込むと臓器の障害。 皮膚に接触すると臓器の障害。 呼吸器への刺激のおそれ。 眠気又はめまいのおそれ。

中枢神経系、視覚器、全身毒性。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。
中枢神経系、視覚器。	

誤えん有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 環境への放出を避けること。

化学品の名称	藻類／水生植物	魚類	甲殻類
メタノール - 67-56-1	-	LC50: =28200mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: >100mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: 19500 - 20700mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: 18 - 20mL/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: 13500 - 17600mg/L (96h, Lepomis macrochirus)	-

残留性・分解性 易生分解性。

生体蓄積性 生体蓄積性: BCF <10。

成分情報

化学品の名称	分配係数
メタノール	-0.77

67-56-1	
---------	--

土壌中の移動性	土壌に吸着する。
オゾン層への有害性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。
他の有害影響	情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	いかなる下水管の中、地面上又はいかなる水域中にも侵入させないこと。 環境中に放出してはならない。 現地の規則に従って廃棄すること。 環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。
汚染容器及び包装	可能であれば回収又はリサイクルすること。 空の容器は火災及び爆発危険有害性を有する。 容器を切断、穴開け又は溶接しないこと。

14. 輸送上の注意

日本

国連番号又はID番号	UN1230
品名 (国連輸送名)	メタノール
説明	UN1230, メタノール, 3 (6.1), II
国連分類 (輸送における危険有害性3クラス)	
副次危険性等級	6.1
容器等級	II

IMDG

国連番号又はID番号	UN1230
品名 (国連輸送名)	メタノール
説明	UN1230, メタノール, 3 (6.1), II, (11°C C.C.)
国連分類 (輸送における危険有害性3クラス)	
副次危険性等級	6.1
容器等級	II
海洋汚染物質	NP
EmS番号	F-E, S-D
特別条項	279

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質
IBC Code: Category Y

IATA

国連番号又はID番号	UN1230
品名 (国連輸送名)	メタノール
説明	UN1230, メタノール, 3 (6.1), II
国連分類 (輸送における危険有害性3クラス)	
副次危険性等級	6.1
容器等級	II
特別条項	A113
ERG コード	3L

15. 適用法令

国内規制 日本

化学物質排出移動量届出制度 (PRTR)

該当しない。

労働安全衛生法

健康診断を要する有害物質

健康診断 - 労働安全衛生法第66条、労働安全衛生法施行令第22条、及び特定化学物質等障害予防規則、別表第5

有機溶剤等 (有機則)

第2種有機溶剤等 - 労働安全衛生法施行令別表第6の2 (第6条、第21条、第22条関係、及び有機溶剤中毒予防規則)

危険物

労働安全衛生法施行令別表第1 (第6条、第9条の3関係)

引火性の物

表示対象物質

安衛法表示対象物質: 労働安全衛生法施行令別表第9 (労働安全衛生法第57条および労働安全衛生法規則第33条関係)

通知対象物質

安衛法通知対象物質: 労働安全衛生法施行令別表第9 (労働安全衛生法第57条の2及び労働安全衛生規則第34条の2の4関係)

労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度

作業環境測定を行うべき作業場 (労働安全衛生法施行令第21条及び作業環境評価基準 - 実行上の管理レベル)。詳細な仕様については、SDSの項目8を参照。

毒物及び劇物取締法

劇物 - 毒物及び劇物取締法別表第2及び毒物及び劇物指定令第2条

消防法:

引火性液体、第4類、アルコール類、危険等級 II、400リットル

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 (化審法)

下表は、記載されている、該当すると考えられるカットオフ値を超える成分を示す

化学品の名称	化審法
メタノール 67-56-1	該当しない。 特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

船舶安全法

詳細については項目14を参照

航空法

詳細については項目14を参照

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律及び施行令、別表第1の2; 区分Y

港則法

詳細については項目14を参照

労働基準法

化学物質により引き起こされる業務上の疾病 - 労働基準法第75条、労働基準法施行規則第35条及び化学物質の成分及び化合物と労働者の健康障害を指定する通告別表第1の2、項目4の1

大気汚染防止法

大気汚染防止法第3条に排出基準が規定されている大気汚染物質

大気汚染防止法第17条、第1項及び大気汚染防止法施行令第10条で定める事故時の措置の対象となる特定物質
大気汚染防止法第2条、第4項で定める揮発性有機化合物

国際規制

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約 該当しない

ロッテルダム条約 該当しない

国際インベントリー

インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること

TSCA 記載されている。

DSL/NDL DSLに記載されている。

EINECS/ELINCS 記載されている。

化審法インベントリ 記載されている。

IECSC 記載されている。

KECL 記載されている。

PICCS 記載されている。

AICS 記載されている。

16. その他の情報

作成者 製品安全部門

発行日 16-11-2021

改訂日 29-6-2022

改訂記録 法規制更新情報。 更新された安全データシート項目: 15。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例

凡例 項目8: ばく露防止及び保護措置

TWA	TWA (時間加重平均)	STEL	STEL (短時間ばく露限度)
天井値	最大限界値	*	皮膚兆候
+	感作性物質		

本SDSの編集に使用した主要参考文献及びデータ源

米国環境保護庁ChemViewデータベース

欧州化学品局

欧州食品安全機関 (EFSA)

EPA (環境保護庁)

急性ばく露ガイドラインレベル (AEGL)

米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法

米国環境保護庁高生産量化学物質

フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)

危険有害性物質データベース

国際統一化学情報データベース (IUCLID)

製品評価技術基盤機構 (NITE)

オーストラリア国家工業化学品届出審査機構 (NICNAS)

NIOSH (米国労働安全衛生研究所)

米国医学図書館ChemID Plus (NLM CIP)

米国国家毒性プログラム (NTP)

ニュージーランド化学物質分類・情報データベース (CCID)

経済協力開発機構、環境・健康・安全に関する文書

経済協力開発機構、高生産量化学物質点検プログラム

経済協力開発機構、スクリーニング情報データセット

世界保健機構

免責事項

この安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に準拠している。このSDSに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい（洩）時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、又は何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシートのおわり

表示対象物質

毒物及び劇物取締法表示対象物質

毒劇物取締法ラベル表示

メタノール

メタノール 100%

医薬用外劇物

消防法:

消防法表示

Warning Pictogram for Japan Fire Service Law

引火性液体、第4類、アルコール類、危険等級 II、400リットル

火気厳禁

火気厳禁